

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2025 年度事業報告書

2025 年度の当協会の事業等について報告いたします。

1. 映像アーカイブに関する調査研究

● 「JAM2025」の企画と実施

昨年度に引き続き、今年度も定時総会の議決結果の報告に続き、イベント「JAM2025」を開催する。今年度も、会員限定ではなく、非会員も対象とした公開イベントとし、非会員の参加は有料とする一方、本イベントをきっかけに入会への勧誘を行う。

イベントは、映像アーカイブにおける“デジタル”に関するベーシックガイダンス、地方映像アーカイブのネットワーク作りを考えるセッションや近年の映像アーカイブにまつわる動向を振り返るフリートーク、ならびにライトニングトークによって構成し、今後会員による分科会や一般公開による研究会へと発展するための萌芽と位置づける。また、懇親会を含め、映像アーキビストによる交流の場とする。

2回目の公開イベント「JAM2025」を、2025 年 6 月 28 日に日本大学芸術学部の協力により、日本大学芸術学部江古田キャンパスで開催した。「映像アーカイブの“今”を語り合う」をテーマに「デジタル映像の残し方、つなぎ方」のベーシックガイダンス、「地方映像アーカイブのネットワークに向けて」・「ここ 2～3 年の映像アーカイブにまつわる話題を語り合う」のセッションを行った。ライトニングトークも全国の映像アーカイブの“今”を知れる機会になった。その後に行った懇親会も含めて、映像アーキビストによる交流が行われ、有意義な場となった。

● 公式ホームページの充実とメッセージプラットフォームを用いた交流の試行

(1) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては対象者の検討を行ない、順次インタビューに着手する。

会員の郷田真理子さんによる『「現像所技術者に聞く 一日本タイミング技術史をまとめる試みー』の一環で、元育英社・今田さんが NFAJ に寄贈した、かつて使われていた機材類（ピンフレームの木枠現像など）を使ったデモンストレーションを撮影・インタビューを、NFAJ・JAMIA と共同で行った。

(2) 「ヒアリングによる日本タイミング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載⇒会員の郷田真理子さんによる『「現像所技術者に聞く 一日本タイミング技術史をまとめる試みー』に引き続き協力、ホームページへの掲載を行う。会員の吉田夏生による「トロント通信 一映画の保存を学んでいます」の連載を継続する。

「ヒアリングによる日本タイミング史」の更新は行えなかったが、元育英社・今田さんのデモンストレーションがまとも次第掲載する予定。映像アーカイブを学ぶために

留学し、何を学んでいるのか、どんなカリキュラムなのか？ 海外でインターンするのはどういう事かなどを、会員の吉田夏生さんによる「トロント通信 一映画の保存を学んでいますー」と題した記事を第6回まで掲載した。

また、イベント「KUAC 収蔵庫見学 及びアート・アーカイヴ資料展 XXVIII:「幽暗 Shadow World—朦朧と立ち上がる土方巽の振付世界」」は、行われた内容を広く知って欲しいということで、ホームページにて公開した。

- **アーカイブ・ツーリズムの企画と実施**

映像アーカイブ活動の現場や映像アーカイブと重要な関わりを持つ場所を視察し、活動に携わる映像アーキビストや関係者との交流を図るために、昨年度に引き続き、アーカイブ・ツーリズムを企画・実施する。

2025年12月5日、大阪において Imagica EMS 大阪プロダクションセンター、施設見学・交流会を開催した。また2025年12月6日、神戸において神戸映画資料館の施設見学・交流会を開催した。

- **映像アーカイブの手法や事例の調査研究と情報共有**

国内外における、映画だけではなく映像全般のアーカイブの技術と事例を広く調査し、情報共有する。

2026年2月14日に KUAC 収蔵庫見学及びアート・アーカイヴ資料展 XXVIII:「幽暗 Shadow World—朦朧と立ち上がる土方巽の振付世界」見学会を開催した。また、2026年3月14日に主催:日本映像アーキビスト協会、共催:独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館で、「ナイトレートフィルムの保存に関する最新研究報告と現状について」の勉強会を行った。

2. **映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進**

- **基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査と検討**

本年度もファンドレイジングに関する調査や検討を行うことができなかった。

3. **映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力**

- **昨年度実施できなかった、映画フィルムの価値や魅力を後世に伝えるための勉強会や一般公開イベントを企画する。**

協会での見学会・勉強会を開催が出来たが、一般公開イベントは開催できなかった。

4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動
- ホームページ、X(旧 Twitter)を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索。

ホームページのリニューアルを行った。リニューアルに伴い、サーバーを移転し、より安定した環境にサイトを設置することができた。X(旧 Twitter)の活用も行った。今年度もX(旧 Twitter)のやりとりから会員になった方もいた。ホームページの連載の投稿には、リアクションが多数あった。非会員に向けたイベントは「JAM2025」として行った。

5. 2025年度定時総会の開催

本年度もコロナ禍後の生活スタイルの変化、全国に亘る会員もいることから、オンラインによる総会開催(2025年6月26日)とし、総会では、定款変更、理事及び監事の選任、前年度の貸借対照表、損益計算書及び監査報告書の承認を得た。